

# 教学データからのモチベーション向上・キャリアパス支援のための情報推薦機構

富山県立大学工学部電子・情報工学科  
1715059 平松楓也

指導教員：奥原浩之

## 1 はじめに

近年の就職活動は売り手市場と言われていたがコロナウイルスの影響で世界的に経済状況が悪化しており、買い手市場に推移していく可能性が考えられる。また、大手企業へ就職を考えた場合、応募人数が多く狭き門であることが多いため、企業は企業がより求めている人材を採用すると思われる。そのため、学生の間に、より効率的に企業が求める人材になるための勉強が必要になるとと思われる。

そこで、過去の卒業生の就職先や、学業成績、野外活動のデータをクラスタリングし、在校生がより効率的に就職活動を行えるよう対話型の情報推薦機構の基礎技術を開発する。

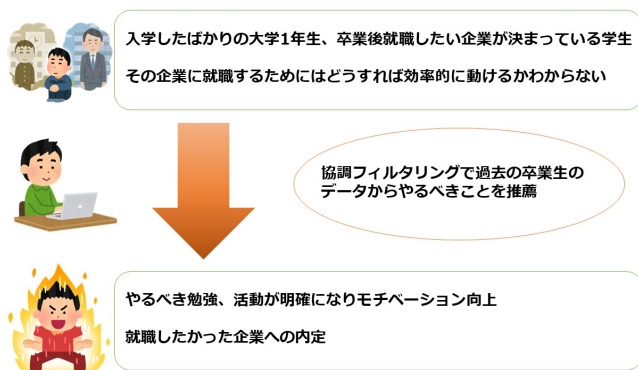


図1 完成目標

## 2 データ分析の種類

### 2.1 説明的データ分析

データ分析の中で一番シンプルなものとしてデータ分析により何か特徴を見つけたり、事実を説明するときに使われる。例えば、どんな人が何を買っているか？ある広告がどれだけ売りに貢献しているか？といったことに使われ、その手法はBI、クラスタリング、アソシエーション分析などが挙げられる [1]。

### 2.2 予測的データ分析

未来や欠測値の予測に使われる。例えば、株価やドル円の予測を行ったりすることができる。その手法には、分類・回帰、統計的機械学習、協調フィルタリングのなどが挙げられる [2]。

### 2.3 指示的データ分析

主に最適解を探すことに使われる。例えば、利益を最大化するための、最適な仕入れ量は？などの問題に対し、シミュレーションを行う。また、AI教育の分野では個別最適化を行い教育の効率化なども取り組まれている。手法としては、最適化やシミュレーション実験などが挙げられる [3]。

## 3 協調フィルタリング

協調フィルタリングとは、Amazonが開発したレコメンドエンジンで、多くのユーザの嗜好情報を蓄積し、あるユーザと嗜好の類似した他のユーザの情報を用いて自動的に推論を行う方法論である。また、協調フィルタリングには二種類あり、ユーザベース協調フィルタリングとアイテムベース協調フィルタリングがある。

### 3.1 ユーザベース協調フィルタリング

ユーザベース協調フィルタリングでは「ユーザ A は未評価アイテム I に対して、当該ユーザと似たような嗜好をしている他ユーザと同じような評価をするだろう」という仮定に基づいている。つまりユーザ A と似ている（＝類似度の高い）ユーザの未評価アイテム I への評価点を元に

ユーザ A の評価点を予測する、というアプローチになる。

### 3.2 アイテムベース協調フィルタリング

今回用いるアイテムベース協調フィルタリングでは「アイテム同士の類似度とあるユーザ A の過去に評価したアイテムの評価点を用いて未評価アイテム I の評価点を予測する」というアプローチになり、この手法の方がよりオフライン処理しやすく、かつ計算速度という面で優れていることからより使われている [1]。

## 4 今後行うアイテムベース協調フィルタリングについて

一般に使われる協調フィルタリングは全ユーザのデータを基にフィルタリングを行うのに対し、今回では、ユーザ A が就職を希望している企業に就職したユーザのみでフィルタリングを行い情報推薦を行おうと考えている。

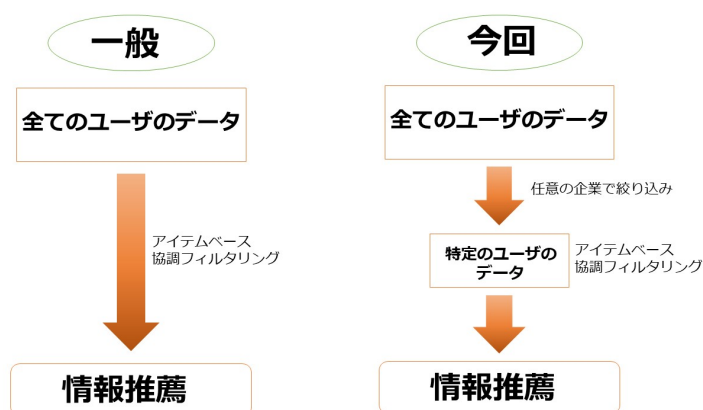


図2 今回の協調フィルタリング

## 5 進捗状況

卒論3章の1と2の先行研究についてまとめた。教学データの構成は今のままで問題ないと感じた。

また、3.2の分析手法では決定木分析、クラスター分析、クロス分析、アソシエーション分析、ロジスティクス回帰分析の5つを調べ教学IRの分野では恐らく使われていないと思われるアソシエーション分析とロジスティクス回帰分析を見つけ、自分の研究に使う場合の案を提示した

## 6 おわりに

決定木分析はが適切に動作していることが確認できた。また、-demoデータの科目情報の部分をNoSQLを使うかCSVを使うかどうかの検討をした。私はその後の処理がしやすいcsv形式で作っていきたいと考えている。

## 参考文献

- [1] <https://www.slideshare.net/takemikami/ss-76817490>
- [2] <https://www.dhbr.net/articles/-/1578?page=3>
- [3] <https://www.digital-knowledge.co.jp/product/edu-ai/edu-ai-merit/>
- [4] 教学IRでの決定木分析の活用 一初年次の学修成果に影響する入学時の学生特徴の探索を例として 関西大学高等教育研究 第8号 2017年3月